



平成27年度
看護学生のための
地域医療体験研修 報告集

研修日 平成27年8月6日（木）～8月7日（金）

福島県会津保健福祉事務所
福島県南会津保健福祉事務所

目 次

1	実施要項	1
2	スケジュール	2
3	郷土料理作り体験、地域住民との懇談	3
4	通院患者へのインタビュー、看護職者との意見交換、 県立宮下病院見学	4
5	特別養護老人ホーム桐寿苑見学	7
6	地域の看護職者との懇談	8
7	学生によるディスカッション	9
8	患者同行研修	10
9	只見町国民健康保険朝日診療所見学	11
10	まとめ・発表	14
11	参加者の体験談	15

1 実施要項

1 目的

地域医療に関心を持つ看護学生に対して、地域医療の現場見学や看護職者との意見交換、また、地域の文化やそこで暮らす住民と直接触れ合う場を提供することにより、過疎・中山間地域における地域医療や地域の現状について理解を深めてもらうことを目的とする。

2 開催日

平成27年8月6日（木）～8月7日（金）

3 対象者

地域医療に関心を持つ福島県内の看護学生（高校生を除く）

4 参加者

7名（会津准看護高等専修学校 3名、仁愛看護福祉専門学校 1名、
仁愛高校第一専攻科 3名）

5 内容

（1）地域医療を担う医療現場（高齢者施設含む）を知る

奥会津地域の医療現場を見学し、地域医療への理解を深める。

〔見学予定先〕福島県立宮下病院、特別養護老人ホーム桐寿園（三島町）
只見町国民健康保険朝日診療所（只見町）

（2）地域で働く看護職者の実情を知る

看護職者との意見交換や懇談を通じて、地域で働く看護職者の生の声を聴くことで、地域医療を支える看護職者への理解を深める。

（3）地域で生活する人の実情を知る

地域住民との懇談や郷土料理作り体験、通院患者への同行、交流を通じて、地域で生活する人への理解を深める。

6 宿泊場所

季の郷 湯ら里（只見町）

2 スケジュール

月日	行程	場所
8月6日 (木)	郷土料理作り体験、 地域住民との懇談(昼食)	森の校舎カタクリ(三島町)
	通院患者へのインタビュー、 看護職者との意見交換、 病院見学	県立宮下病院(三島町)
	特別養護老人ホーム見学	桐寿苑(三島町)
	地域の看護職者との懇談(夕食)	季の郷 湯ら里(只見町)
	学生によるディスカッション	↓
8月7日 (金)	患者同行研修 患者宅 → 懇談 → 巡回タクシーに同乗 → 患者と懇談(診療所) → 受診 → 終了	只見町国保朝日診療所
	只見町国保朝日診療所 見学	↓
	研修まとめ(グループワーク、発表)	↓



3 郷土料理作り体験・地域住民との懇談

【日時】 8月6日(木) 11:00~13:00
【場所】 三島町「森の校舎 カタクリ」(福島県大沼郡三島町西方字上原 3580)
【目的】 郷土料理作り体験を通して地域の文化に触れるとともに、地域住民との懇談を通して地域の実情について理解を深める。

三島町「森の校舎カタクリ」にて、カタクリの会スタッフから指導を受けながら、笹巻き、こづゆ、いか人参など郷土料理づくりを体験しました。また、きなこ挽き体験では、石臼をまわしながら、奥会津の生活に思いをさせ、きなこの香りをたのしみました。

お昼は、三島町西方地区住民(子育て経験者4名)と会食をしながら懇談の時間を持ちました。地域の文化に触れるとともに、地域の実情について理解を深める貴重な機会となりました。



こうやって、笹の葉を重ねて・・・



もち米入れて、上手に結んで・・・



こんなにたくさんできました



きなこ挽きって、意外と大変。
でも、いい香り・・・



「いただきます〜す」



地元の工芸品の紹介。
「これは、アケビのつるでつくりました」

【参加者の声(事後アンケートより)】

○普段の生活では経験できないことを体験させていただき、三島についても食を通して知ることができました。研修の初めにリラックスすることもでき、メリハリをつけて、後の研修に取り組むことができました。

○食事もかねての郷土料理作り体験、地域の人々とお話など、本来なかなかできない機会に携わる事ができて、とても良い研修でした。この機会を通して、地域に貢献したいと強く思いました。

4 通院患者へのインタビュー、看護職者との意見交換、県立宮下病院見学

- 【日時】 8月6日(木) 13:30~15:30
【場所】 福島県立宮下病院(福島県大沼郡三島町大字宮下字水尻1150)
【目的】 ①通院患者へのインタビューを通して、へき地で医療を受ける人への理解を深める。
②病院の概要説明及び施設見学を通して、へき地病院の持つ役割について知識を深める。
③地域医療に従事する看護職者から、地域医療に対する考え方や体験談などを聞き、意見交換を行い、地域医療への理解を深める。

○宮下病院の概要説明

古川看護部長より「看護を志す若い方にお越しいただき、ありがとうございます。本日は、目で見て学んで皆様の将来につなげていただきたい」と挨拶がありました。

概要説明では、通常業務の他に高齢世帯が多い地域で、最後まで地域で暮らしたいという地域住民のニーズに沿えるよう取り組んでいる事業について、説明をいただきました。

(主な取り組み)

- ・待合室で実施している院内健康教室
- ・H20年度からスタートした出前講座
- ・訪問診療、訪問看護
- ・年2回実施している医療保健福祉関係機関連絡会
- ・施設との合同ケア会議
- ・通院困難な人に喜ばれている無料送迎バス等・・・



福島県立宮下病院
古川 昌子 看護部長

○県病院局からのお知らせ



県病院局の職員が2日間の研修に同行し、「福島県立病院 看護師募集のごあんない」を配布しながら、へき地医療を支えている県立病院の紹介をしました。

各病院とも認定看護師研修への職員派遣など、看護の質向上に関しての意識も高いことなども紹介されました。

地域に住み続けていくために、へき地医療が重要な役割を担っていることを学ぶ機会となりました。

○看護職者との意見交換



意見交換では、滝本事務長、古川看護部長他4人の看護職員の方に参加いただき、学生からの質問に、丁寧に回答していただきました。主な質疑応答は下記のとおり。

【質問】高度救急や規模の大きい病院ではなく、へき地の病院を選んだ理由。

【回答】大きい病院では、自分の周りしか見えず、組織として機能するという働き方だった。ここでは、自分たちが何でも関われるし、ここが自分に合っていた。

【質問】コミュニケーションのコツを教えて欲しい。

【回答】口で言えなくても、何らかのサインが出されている。寄り添う看護で、表情やしぐさなどからもサインを見つけている。看護師の表情も患者に分かることを意識する。



【質問】ここでの勤務ならでは、と思われることは。

【回答】病院と地域との交流がある。町のビーチバレー大会へ職員が参加したり、また過去には、駅伝大会にも参加したことがある。雪も多いが、除雪がしっかりなされるので、道路事情は良好。県公舎も利用できる。また、看護の面では、患者とより良い関係を築くために、担当看護師が入院から退院まで、受け持っている。

【質問】ここで看護をする時に、学んでおいた方が良いことは。

【回答】高齢者は多面的な問題を抱えており、対応が難しいと思われがちだが、若い看護師でも教育体制が充実しているので、心配いらない。

【質問】男性ならではの仕事は。

【回答】特にないが、高齢者が多いので、移動などの力仕事は、積極的に行うようにしている。

【質問】地域とはどのように連携しているのか。

【回答】例えば、認知症患者が通院日に送迎バスに乗ってこない場合、居宅などの関係者へ連絡して訪問してもらったり、もの忘れ外来から家族に電話してもらうなど、関係者みんなでケアしている。



【参加者の声（事後アンケートより）】

○実際の看護者たちの考え・意見が聞くことができてよかった。

○看護職者の方々と直接意見交換できる機会は、今まであまりなかったので、年代の異なる看護職者からお話を聞くことができて良かった。

○看護職者との意見交換では、大きい病院とはちがう側面を聞く事ができました。例えば、患者さんが来ると、親しみを持って患者さんに話しかけているという様な事でした。ここでの「心のある医療」を強く感じました。

○通院患者へのインタビュー

外来患者に、学生がインタビュー。通院方法や冬場の生活、病院への思いなどをお聞きし、高齢化の進んでいる地域にとって病院の存在がどれ程大きいかを実感しました。



【参加者の声（事後アンケートより）】

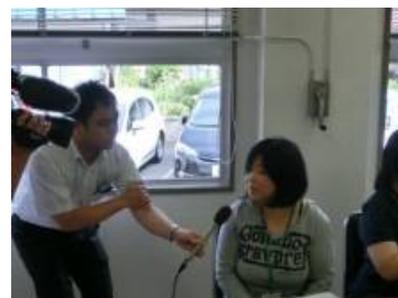
○患者さまとのコミュニケーションでは、楽しく触れ合うことができたので良かった。
○通院患者さんのインタビューでは、男性の患者さんにインタビューをしました。その患者さんとは最初にどんな職業をされているのか、病院まで何で来られるのかなど、いろいろお話をされました。特に冬での話題が多く、冬に病院に行く時のことなどをお話されていて、聞いているこちらにも、とても実感を持つことができました。

○病院見学（病棟、検査室、薬局の見学）

齋藤看護師長より、院内の説明を受けながら見学をさせていただきました。



*テレビ局（KFB）の取材が入り、学生がインタビューを受けました。



5 特別養護老人ホーム桐寿苑 見学

- 【日時】 8月6日(木) 15:45~16:45
【場所】 特別養護老人ホーム桐寿苑(福島県大沼郡三島町大字宮下字坂ノ下659)
【目的】 施設の概要説明及び見学を通して、老年人口の割合が高い地域における老人福祉施設の役割を理解する。

○施設の概要説明

馬場施設長から施設の概要説明を受けました。学生から事前に出された質問に対し、丁寧に回答いただいた。

最後に、施設内(共有スペース、居室、浴室等)を見学しました。



○学生との質疑応答

【質問】施設の看護師が行っている業務は。

【回答】処置や点滴などの医療処置が中心ではない。健康状態や病状経過の確認、病院への伝達。病院との違いは医師が常時いないため、入院など施設の判断で行わなければならない。

【質問】待機者は何人ぐらいか。

【回答】150名くらい。三島・金山・昭和が多い。若松市の待機者もいる。

【質問】介護保険の自己負担割合が1割から2割に増えるが、利用者への影響はあるか。

【回答】ない。在宅100名中2名が2割になるが、介護サービスに変化ない。



【質問】生活のサポートに現場経験の差が出るか。

【回答】サポートする人によって様々なので、経験よりは本人のやる気で差が出る。

【参加者の声(事後アンケートより)】

○質問事項に対して、ていねいにプリントで返答されたので、うれしかったです。実習に生かしたいと思います。

○初めて老人ホームを見学をさせていただいた。私は最初、老人ホームといえば、あまり明るいイメージではなく、なんとなく個々だけの触れ合いしかなくて、利用者さんの受け入れは認知症の方が多いのかなというものでした。しかし、改めて今回見学して、イメージとはまた別に、老人ホームでの事や入居状態、利用者さん達の事などお話を聞いても、自分で思っていたものとまったくちがうことに驚きました。イメージだけでなく、実際に現場に出て、見学ができて、現状を知る事ができて良かったです。

6 地域の看護職者との懇談

- 【日時】 8月6日(木) 18:30~20:00
【場所】 季の郷 湯ら里 (福島県 南会津郡只見町大字長浜字上平50)
【目的】 地域医療に従事する看護師から、地域医療に対する考え方や体験談などを聞き、意見交換を行い、地域医療の見識を深める。

○看護職者との懇談

只見町「湯ら里」にて只見町国保朝日診療所の看護職者4名と懇談し、地域の看護職者の実情について理解を深めました。子育てや冬の暮らし方など、仕事以外の話もお聞きすることができました。



【参加者の声(事後アンケートより)】

○看護だけでなく、いろいろな話をしてくださってくれて、楽しく懇談できた。看護者との実習以外でのコミュニケーションをしたことがなかったので、楽しかったです。

○なかなか聞く事ができない看護師さん達の本音が聞く事ができて、とても良かった。休みの事、育児について、冬のトラブルなどの話がきけた。

○地域の看護職者さんとの懇談では、病院内のお話やどんな事をしているのかなどをお聞きしました。お話を聞いてみると病院でも、他の病院とはすこし対応が異なっていたり、その他看護学生の時に、レポートを提出する大変さだったりといろいろでしたが、将来に役立つお話が聞けてすごく良かったです。このことを忘れずに今後に活かして行きたいです。

7 学生によるディスカッション

- 【日時】 8月6日（木） 20:00～21:00
【場所】 季の郷 湯ら里（福島県 南会津郡只見町大字長浜字上平50）
【目的】 提示するテーマについて、参加学生間でディスカッションを行い、地域医療についての見識を深める。
【内容】 テーマ「地域における医療の問題点」
（進行：福島県会津保健福祉事務所 鈴木主幹）

○学生によるディスカッション

鈴木主幹を座長にディスカッションを行いました。

「地域における医療の問題点」をテーマに2班に分かれ、KJ法により問題点をまとめ、発表しました。



【看護学生が考える「地域における医療の問題点」】

少子高齢化、子育ての問題、交通が不便、若者が定着しにくい、プライバシーの問題、環境（豪雪、日照時間短い）、医療従事者が不足、病院の専門科が不足、介護施設の不足、高齢者のひとり暮らしから来る孤独、通院困難など。

【参加者の声（事後アンケートより）】

○地域医療をもっと向上させていくためには様々な問題があり、それを一つ一つ解決していくことが重要だと、このディスカッションで学ぶことができました。一つ一つの問題がとても大きく解決するのが難しく、いろいろな対策をしなければいけないと思いました。
○初めて学生同士によるディスカッションを行い、最初は何から記入すればよいのか迷いましたが、自分の思っていた事をテーマに沿って書いていきました。自分の思った事と他人の思っていた事がそれぞれ異なっていたものもあり、すごく共感する所もあって、後々のディスカッションにつなげる事ができました。

8 患者同行研修

- 【日時】 8月5日(火) 8:00~11:00
【場所】 只見町国民健康保険朝日診療所
(福島県南会津郡只見町大字長浜字久保田 31)
【目的】 看護学生が患者(住民)宅を訪問し、医療の現状や住民の考えなどを聞き、主にコミュニケーション能力を養う。また、患者が自宅から受診して薬を受け取るまでの過程に同行し、通院する大変さ等を体験する。

○患者同行研修

4名の通院患者の自宅に各1~2名の看護学生が受診前に訪ね、生活の場を把握。患者と一緒に雪んこタクシー(デマンド交通)で移動し、診療所受診~薬局で処方されるまで同行する。



【参加者の声(事後アンケートより)】

○実際に体験することができ、患者様の視点から学ぶことができました。雪んこタクシーは町にはかせない重要な役割を担っていて、それを支える運転手の方も立派な医療従事者だと思います。いろんな面から支えることができるので、自分たちにもできることをみつけたと思います。

○家族のようにあたたかく迎え入れてくれて、とても嬉しく思いました。又、雪んこタクシーの良さと病院までの通院の大変さや冬の生活の大変さなど、お聞きすることができた。

○患者同行研修では、最初は何からお話していいのかとまどいでしたが、何げないお話から始めて、病気に対する気持ちなど、いろいろお聞きする事ができるようになりました。病気の予防のために実施しているマッサージ方法なども聞き、自分には思いもよらなかった考えを発見する事ができました。

○学校の実習では、患者の家から診療所まで同行することがないので、今回は違う目線で患者さんを診ることができた。

9 只見町国民健康保険朝日診療所 見学

【日時】 8月7日(金) 11:00~12:00

【場所】 只見町国民健康保険朝日診療所
(福島県南会津郡只見町大字長浜字久保田31)

【目的】 診療所の概要説明及び施設見学を通して、へき地診療所の持つ役割について知識を深める。

○只見町国保朝日診療所見学

吉津看護師長より、診療所の概要説明をいただいた。学生からの事前質問に回答いただきながら説明いただく。

診療所の通常業務の他に、各種保健事業、町内各施設への対応、健康講演会の実施などの説明がありました。その他、下記の内容についてを追加説明いただいた。

- ・診療所内での委員会活動
- ・外部機関からの研修受入
- ・予防接種～はち刺され時のアナフィラキシー緩和のエピペン(自己注射)を学校に配備。
- ・医療機器の点検として、ヒューマンエラー予防のためインシデントレポートの積極的取り組み。
- ・救急隊の院内研修：二次救急の宮下病院や南会津病院まで車で1時間。ヘリコプター利用が多い。



只見町国民健康保険
朝日診療所
吉津 有子 看護師長

○病棟見学



○医師との懇談

昼食をとりながら朝日診療所の若山所長、山内医師と懇談した。



若山所長と山内医師から自己紹介があり、その後若山所長より「この研修になぜ参加したか」と学生に質問される。

学生からは「学校の授業では地域医療に関しては座学のみで実習がない」「救急医療の対応を見聞きしたかった」「地域での継続看護を知りたかった」などの返答があった。

意見交換では、学生からの質問に若山所長と山内医師が回答する形で進められる。主な内容は下記のとおり。

〔病院との違い〕

- ・病院は急性期への対応が中心で、病気の治療や早期リハビリが目的となる。病気を中心に見るが、ここでは、ソーシャルワーカー的な事も必要。老人保健施設や只見ホームなどの施設での医療、訪問診療、急性期を過ぎている患者への対応など、病気だけを診てはやっていけない。
- ・慢性期を診る。地域医療を守る一員として、医師だから看護師だからの仕切りはない。入院したとか通院した時だけでなく、亡くなるまで診ていかなければならない。最後までお付き合いする。
- ・家で生活することをベースに考えて診るが、難しくもあり、楽しいところもある。いつのまにか只見弁が身についていた。

〔大変だと感じたこと〕

- ・町の唯一の医療機関として、たくさんの問題が集まってくる。逃げ場がない。1人医師対応時は追い詰められることもあった。いろいろな問題があるので、皆で一緒に考えて行っている。
- ・大きい病院だと医師は病気のことで頭がいっぱいで、患者の生活を想像することがほぼ無い。また、患者との近さが違う。結びつきやつながりが強い。
- ・患者が自宅に招いてくれるようになったことで、やっていたよかったですと感じる。
- ・在宅での急変は他診療との板ばさみにあったり、少ない選択肢からの救命で厳しい状況もあった。
- ・総合家庭医学を実践できる場所として、これ以上のところはない。



〔看護師に望むこと〕

- ・患者は診察で意外に話せていない。話したいことの2割話せばいい方。だから、看護師に患者の話をよく聴いてほしい。話せただけで満足な患者も居る。
- ・具合の悪い人をうまくつなげる。鑑別診断ができ、医師につなぐことができるためにも、勉強が大事。
- ・訪問診療は、他で経験できることでない。ここに来て手探りで対応。使える物は、すべて使う！
- ・医療安全などの委員会のような組織は、医師中心ではなく、枠組みをみんなで決め、役割分担し実施。
- ・医師や看護師の上下関係はない。患者の病気や生活、ADLなどにスタッフが協力して対応。



【参加者の声（事後アンケートより）】

○診療所を見学してみて、最初に感じた事は、とても解放的な空間で患者さん同士がそれぞれソファーにすわり、お話をいろいろとされていた事に驚きました。診療所という場所なので、とても静かなイメージが強かったためです。そのほかにお医者さんとの意見交換の際、地域の人たちとどの様にして接しているのか、またどんな事を行っているのか、などとても興味があるお話を、お聞きする事ができて良かったです。

○医師の方々が大変若く、地域にとけこんでおられた姿が印象に残りました。また、質問もしやすく、丁寧に答えて頂きありがたかったです。

○都市医療は、病気を治すことに力を注ぐ。地域医療は患者の疾患だけをみるのではなく全体をみて最後まで関わっていくことがわかった。

10 まとめ、発表

- 【日時】 8月7日（金）13：00～14：30
【場所】 只見町国民健康保険朝日診療所
（福島県南会津郡只見町大字長浜字久保田 31）
【目的】 地域医療体験研修に参加して感じたこと、学んだこと等をまとめ、発表する。
【内容】 テーマ 「地域に求められる看護職とは」
（進行：福島県会津保健福祉事務所 鈴木主幹）

鈴木主幹を座長にディスカッションを行いました。「地域に求められる看護職とは」をテーマに、参加者7人でKJ法により問題点をまとめ、発表しました。



（看護学生が考える「地域に求められる看護職」）



【参加者の声（事後アンケートより）】

- 多くの医療従事者、地域住民と直接話すことができ、地域医療の良さや生きがいを持って、たくましく生活しているパワー、南会津の人々の優しさに触れることができました。
- 研修を終えて、初めての体験や見学があり、とても新鮮に感じる事ができました。また、患者さんとの接し方も少し学ぶことができました。この研修の体験や見学を実習につなげて行きたい。
- 今回の研修は、まるで実習のようでしたが、医師や看護師、医療スタッフに質問することは、ほとんど無かったし、患者さんの家から診療所までの同行もしたことが無かったので良い体験となった。

1 1 参加者の体験談

〔体験談①〕

この研修を通して思ったことは、それぞれの町ごとの特色を知ることができました。地域ごとの文化や伝統に触れることができ、とても良い経験になりました。

地域医療のイメージには、よいイメージがわからないと思いますが、実際の現場に行くことで多種職との連携や地域のつながり、町のシステムに触れることができ、へき地でもとても素晴らしい医療が提供していることが理解できます。

〔体験談②〕

確かに、医療を行う為の設備や人材不足など、多くの問題点が見え、患者さん側からの視点として、高齢化に伴う通院の大変さ、厳しい自然の中での生活の大変さを知る研修となりました。それは、私自身、想像していた地域医療の今の現状そのものであったと思います。しかし、そのような中でも足りない物を補い応用したり、他の病院や施設、さらには地域の人達、患者さん自身やそのご家族の人々と連携をし、良くしていきたいという気持ちや活動を知る事ができました。大変な環境の中だとは思いますが、地域医療は絶対になくしてはいけないもど感を感じました。

〔体験談③〕

今回の研修で初めて奥会津地域に行きました。地域医療を支えている医療従事者から、直接お話を聞くことができて、経験豊富な奥会津に住んで長い方から、新人で都会育ちの方まで色々な経験、苦労、やりがいを知ることができました。

まだ看護学生なので、受容することばかりでしたが、皆さまが奥会津を愛していて、自分がこの地域に必要とされているということを感じている医療従事者の方がいて、私も意思を持って行動できる看護師になりたいと思いました。

看護学生同士が意見交換し、新しい考えに触れ、良い刺激となりました。

〔体験談④〕

実際、訪問同行させて頂き、少し生活の様子を見せてもらい良かったです。若い医療スタッフがかなり多いと感じました。皆さん地域にとけこんで、がんばっている姿が見られました。診療所は地域の方々同士のコミュニケーションの場になっていると思いました。アットホームな感じが市内とは違うと思いました。

同行させて頂いたご夫妻は、とても親切でいろいろな質問に答えてくださり、ありがとうございました。

〔体験談⑤〕

私は、今回の研修で学んだ事は、研修先での地域の人達が医療に対してどのような事を思っているのかという事や、その地域ならではの問題面（特に冬の時期の交通状況など）と良い面（親しみを持って、お話をされていた事など）の両方を知った事です。

この研修で学んだ事を生かして、病院での実習などに取り組みたいと思います。

〔体験談⑥〕

僕は地域医療という言葉は知っていたが、それがどのようなものなのかわからなかった。そこで、地域医療体験研修に参加した。普段、学校の実習ではやらないことも今回の研修では体験することができ、また、地域医療の良い所や問題点なども理解することが出来た。

平成27年度 看護学生のための
地域医療体験研修 報告集

平成27年11月24日 発行



福島県 会津保健福祉事務所
福島県 南会津保健福祉事務所
総務企画部 総務企画課
電話番号 0242-29-5506
FAX 0242-29-5509
aidu.hokenfukushi@pref.fukushima.lg.jp